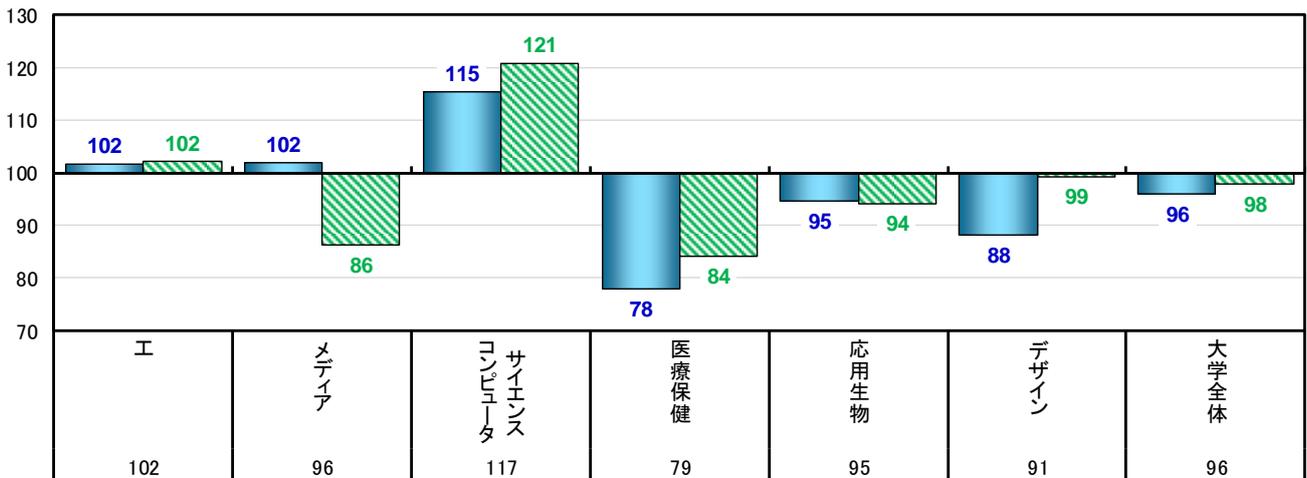


**東京工科大：大学全体ではやや減少で、前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少 一般：-428人 共テ：-91人**

※前年度の志願者数を100とする指数  
 ※学部名の下の数値は学部全体の指数

■ 一般方式 ■ 共テ利用方式


**COMMENT ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数**

大学全体では、519人(96)のやや減少で、前年度の大幅減少に引き続き2年連続減少。学部別では、6学部中4学部が減少で、特に(医療保健)(79)は2年連続大幅減少。一方で、(コンピュータサイエンス)(117)は大幅増加。方式別では、一般方式は428人(96)のやや減少で、〈一般A日程〉(97)はやや減少、2期募集の〈一般B日程〉(87)は減少。〈奨学生〉(99)は前年度並、共通テスト利用方式は91人(98)の微減で、共通テスト受験前に出願締め切りとなる〈共テ前期〉(97)はやや減少、共通テスト受験後に出願可能なく〈共テ後期〉(109)は増加。共通テストの平均点ダウンの影響を加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。

**〈一般方式〉**

- 工(102)**は、前年度大幅減少の反動は小さく、微増に留まった。学科別では、3学科中2学科が増加で、(電気電子工)(106)、(機械工)(103)のいずれもやや増加。一方で、(応用化)(93)はやや減少で2年連続減少。
- メディア(102)**は、前年度並。方式別では、〈奨学生〉(109)は増加、〈一般A日程〉(102)は微増。一方で、2期募集の〈一般B日程〉(96)のみやや減少。
- コンピュータサイエンス(115)**は、前年度大幅減少の反動による大幅増加で、2年ぶりに志願者数は2,100人を上回った。専攻別では、(コンピュータサイエンス/先進情報)(119)は大幅増加、(コンピュータサイエンス/人工知能)(111)も増加で、いずれも前年度大幅減少の反動。
- 医療保健(78)**は、2年連続大幅減少。学科・専攻別では、6学科・専攻全て大幅減少。
- 応用生物(95)**は、前年度大幅減少の反動はなくやや減少。専攻別では、(応用生物/生命科学・医薬品)(94)、(応用生物/食品・化粧品)(95)はいずれも前年度の大幅減少に引き続きやや減少。方式別では、いずれの方式でも減少だが、特に2期募集の〈一般B日程〉(70)は2年連続大幅減少。
- デザイン(88)**は、前年度大幅減少の反動はなく、さらに減少率10%以上の減少。専攻別では、(デザイン/工業デザイン)(88)、(デザイン/視覚デザイン)(89)はいずれも前年度の大幅減少に引き続き減少。方式別では、いずれの方式でも減少だが、特に〈奨学生〉(77)は2年連続大幅減少。

**〈共通テスト利用方式〉**

- 工(102)**は、前年度ほぼ半減の反動は小さく、微増に留まった。学科別では、3学科中2学科が増加で、(電気電子工)(111)は増加、(機械工)(102)は微増。一方で、(応用化)(92)は2年連続減少。
- メディア(86)**は、前年度大幅減少の反動はなく、2年連続減少。方式別では、〈共テ前期〉(84)は2年連続大幅減少、〈共テ後期〉(136)は大幅増加と対照的。共通テスト受験後に出願可能なく〈共テ後期〉において、共通テストの平均点ダウンを加味した合格目標ライン予想をもとにした追加出願の増加も影響。
- コンピュータサイエンス(121)**は、前年度ほぼ半減の反動で大幅増加。2019年度以降、前年度の反動による大幅な増減が継続。専攻別では、(コンピュータサイエンス/先進情報)(129)は大幅増加、(コンピュータサイエンス/人工知能)(110)は増加でいずれも前年度大幅減少の反動。
- 医療保健(84)**は、2年連続大幅減少。学科・専攻別では、6学科・専攻中5学科・専攻が減少。特に、(リハビリテーション/作業療法学)(69)、(臨床工)(77)、(リハビリテーション/理学療法学)(82)は大幅減少。一方で、増加した(リハビリテーション/言語聴覚学)(105)は志願者数1人のみの増加。
- 応用生物(94)**は、前年度減少率40%以上の大幅減少に引き続き、やや減少。専攻別では、(応用生物/食品・化粧品)(99)は微減、(応用生物/生命科学・医薬品)(90)は減少で、いずれも2年連続減少。
- デザイン(99)**は、前年度大幅減少に引き続き、微減。専攻別では、(デザイン/工業デザイン)(94)はやや減少で2年連続減少。一方で、(デザイン/視覚デザイン)(105)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。